



平成16年度  
進路講演会

◆進路講演会 平成17年3月17日(木) 1, 2年生・保護者対象

演題「夢航海～ひとりぼっちの挑戦～」

講師: 白石康次郎氏(海洋冒険家)



「小学生の時、太平洋を見て、向こうにはアメリカがあるんだ、行ってみたいと思ったのが『海への憧れ』の始まりです。母親が小学校1年の時亡くなり、父と明治生まれの祖母、兄と妹という家庭に育ちました。父はとても厳しい人でしたが、価値観の押しつけ等は一切ありませんでした。選択の岐路にあっても『自分で決める』、全く勉強しない私に『勉強はしてもしなくてもいいが、将来勉強ができなくて困っても絶対に人のせいにするな』と自己責任の大切さを言われたことを覚えています。高校も自分で、三崎水産高校(研修旅行でハワイに行けるのが魅力でした。)に決めました。世界一周したいという夢は諦めきれず、募るその思

いから、多田雄幸氏(オケラ5世号で第一回BOC単独世界一周ヨットレースで優勝された方)に直談判、弟子入りすることができました。

水産高校では、10種の国家資格と海の厳しさを、師匠からはヨットの楽しさを、親からは「行動」を学んだと思っています。何事も手詰まりになれば、座禅を組んで頭を使わず心で感じて腹で決める。ヨット上では一度にひとつのことしかできません。良質の決断をすることは大切ですが、そのためには人間が一番能力を発揮できる状態、平常心が最も必要となるのです。」(以下講演における本校生へのアドバイス)

- ・今夢を持っている人は、安心して進もう。必ずかなえられます。
- ・まだ夢を持っていない人は、一つひとつのことを一生懸命にやろう。
- ・感動は決して外からは来ない。自分の心の中にあって内からわき出るものだ。
- ・黙っていたら、人から声をかけてもらえない。自分で探し、動き、声をかけよう。
- ・欲しいものがあれば、そのチャンスに値する人間になろう。
- ・自分の心の中の、正しいと感じる良心に従おう。

\*「大切なことは、大志をいだき、それを成し遂げるなかで、技能と忍耐と仲間をもつことである。その他はいずれも重要ではない。」

単独無寄港世界一周を史上最年少で果たし、今もアラウンドアローンへの挑戦を続ける白石康次郎さんのお話は大変貴重なものばかりで、一言一句が一人一人の心に響いたことは言うまでもありません。

【白石康次郎氏プロフィール】

- 1967年 東京生まれ鎌倉育ち。横浜国立大学教育学部付属小・中学校卒業。神奈川県立三崎水産高校専攻科卒業。
- 1987年 第一回単独世界一周ヨットレース優勝の故多田雄幸氏に弟子入り。
- 1994年 1993年10月3日から1994年3月28日(176日)にかけて、46,115Kmの世界最年少単独無寄港世界一周を達成(26歳)。
- 1997年 世界で最も過酷なレース「レイド・ゴロワーズ」南アフリカ大会で日本過去最高の11位でゴール。
- 2003年 「アラウンド・アローン」のクラスⅡで、4位でゴール。

◆進路講演会 平成16年11月26日(金)

演題「異文化に橋を架ける ～未見の我を追い求めて～」

講師: 國弘正雄氏(英語・文化人類学者)

全校生徒・職員・保護者を対象に約2時間に渡って熱弁を振るわれました。出版会社社長、外務省参与、教育テレビ講師、参議院議員などいろいろな仕事を経験するなどバイタリティあふれた先生の行動力は小学生の頃から発揮されていたようで、小学校4年のときに野口英世の姉に会いに行ったことなどを話していただきました。若い高校生を相手にして、「未だ会ったことのない自分を信じなさい。豊かな未見の我が待っている。できるだけ場数をたくさん踏んで欲しい」とエールを送っていただきました。また、生徒の質問に答えて、「日本文化の良さは、いろいろな価値を受け入れてきたことだ」と答えられ、「東アジアを大切にしないと日本の将来はない」とこれまでの多くの経験の基づく持論を語っていただきました。アポロ宇宙船が月面に着陸するときの同時通訳も経験され、そのときの裏話も興味深く拝聴させていただきました。



◆3年進路講演会 平成16年6月22日(火)

演題「スポーツにみる名勝負・名シーン」

講師: 二宮 清純氏(スポーツジャーナリスト)



「スポーツにみる名勝負・名シーン」と題して、スポーツジャーナリストの二宮清純氏が講演されました。その中で、若者がこれから生きていく心構えとして次のようなアドバイスがありました。

- ・夢を持って―――何になりたいか(手段)でなく、何をやりたいか(目標)を考えよ。
- ・ピンチは自分を強くするチャンスだと考えよ。
- ・固定観念や先入観にとらわれず、頑固さと柔軟さの両方を持ち、自分という世界に一 つしかない、オリジナルなものを磨け。
- ・日本人に欠けていると言われる、ここぞという時に決断を下すスピード“decision speed” を持つ。
- ・21世紀に生きる人間には、パッション(熱意)、ミッション(使命感)、アクション(行動力)が必要である。

最後に、“You don’t dream it. Drive it!”（夢を見て考えているだけではだめだ。実際に動きなさい。）という、アメリカ大リーグ、アトランタ・ブレーブスGMのジョン・シャーホルツ氏の言葉で講演を締めくられました。これまでの取材等を通して得られた、野茂投手やイチロー選手などの具体的なエピソードを交えた、とても説得力のある講演で、3年生は皆熱心に聞き入っていました。